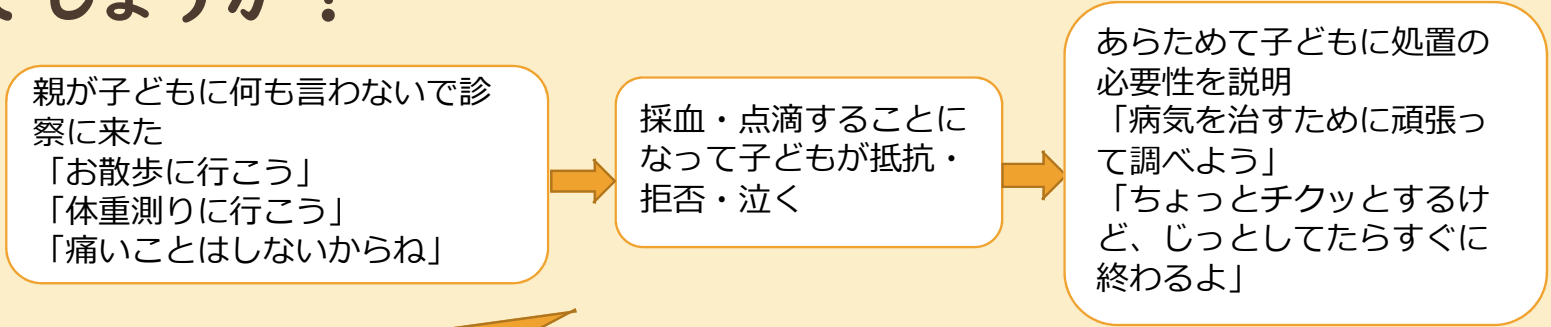


# Q;親が子どもに何も言わないで連れてきた場合どうしたらよいのでしょうか？



親によっては、病院に行くというと子どもが不安がってスムーズに受診ができないことを懸念し、子どもに何も言わないで受診に連れて来ることや、「お散歩に行こう」など嘘やごまかして連れてくると、病院へ来た時の子どもの戸惑いは大きくなります。

採血や点滴などの医療処置を行う場面になると、子どもは大人（医療者、親）への不信感や何をされるかわからない恐怖心から、言葉で意思を表明できない子どもの場合は行動で泣いて抵抗したり、拒否したりすることで感情を表出します。

その場合は、あらためて子どもに処置の必要性や方法をわかりやすく伝え、協力を促すことが必要になります。

処置後は、できれば親に子どもには嘘をつかないで受診することや医療処置があることを子どもに「ちゃんと調べてもらおうね」などとわかりやすい表現で伝えることが、今後の子どもの主体的な医療行動や親子の信頼関係構築に重要であることを伝えることが必要だと考えます。

子どもに医療処置があることを伝えた方が良いことを伝える  
例)  
「うそをついたり誤魔化したりすると外出する時にびくびくする様になって注射をととても怖がるようになります。信頼関係も難しくなります。  
次回からはちゃんと調べてもらおうねなど、子どもに話してきてくださいね。ちゃんと話して連れてきた方が子どもは落ち着いてできるようになります。」